

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2793200227		
法人名	社会福祉法人 弘道福祉会		
事業所名	守口金田グループホームラガール		
所在地	大阪府守口市金田町4-5-16		
自己評価作成日	平成30年9月28日	評価結果市町村受理日	平成30年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

複合施設の中にある特徴を生かし多職種との連携が強みです。例えば医療に関しては、病院との連携のほかに、日常生活の些細な変化も施設内の看護師や管理栄養士など相です。また、普段の少人数の家庭的な暮らしの中にも刺激を受けていただけるように、家援や施設全体の行事参加など行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設は、平成29年10月にオープンした「守口金田ケアセンターラガール」という名称の複合施設の一つとして開設された。他に地域密着型特別養護老人ホーム、看護小規模多機能施設、ショートステイ、デイサービスが併設されている。近くには系列の守口生野記念病院があり、その両部門が地域の高齢者を連携して支援している。理事長によると当地域(庭窪・佐太)の地域活動が盛んな地域であるので地域密着型事業を展開したとのことである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフステーションの目の付くところへ掲示し、理念を実践できるように事業所目標、個人目標を立てている。	当事業所の理念は「安心：高度な技術、専門の知識を獲得する。信頼：人を敬い、人に優しいプロとなる。貢献：地域の人々に感謝される人となる」である。守口金田ケアセンターラガールの理念であり、グループホーム固有の理念は存在しない。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の催しに参加している。また、施設行事として、地域のボランティアの方に、演奏などして頂き、利用者の方と交流を図っている。	オープンして間もないのでまだ地域との付き合いが整っている訳ではないが、地域ボランティアの受け入れから始めている。建物1階には地域交流を目的としたホールが用意されているが、健康体操(カラコロ体操)の活用として利用された。地域包括も継続を期待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が相談に来られた場合に、適切なアドバイスを行い、必要に応じて関係機関を紹介等している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、自治会、地域包括支援センターからの申し出で、介護予防体操教室を開催する。	会議は地域密着型特養、看護小規模、グループホームの3事業所合同にて行われている。外部からは民生委員と守口第2地域包括支援センター職員が参加している。会議の主な内容は3事業所の運営状況、入所状況報告が主である。	職員研修の実施内容も報告事項に組み入れることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	守口市グループホーム連絡会に参加し、市や他職種との連携に協力している。	守口市、くすのき広域連合、守口第2地域包括支援センターが行政サイドの窓口であり、利用状況、問題点の報告相談を行っている。偶数月に行われる市グループホーム交流会に参加して同業者間の情報交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修に参加し、グループホーム職員に具体的に「これをするとは拘束」と理解できるように伝達研修を行っている。	身体拘束の防止や虐待防止に関する法人の研修内容が充実徹底している環境で、職員が学習している。介護現場の中で利用者個々の身体・精神状況に応じて身体拘束防止の観点からケアの方法を検討している。グループホームの入口は安全を優先して施錠されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外、施設内研修に参加し、高齢者虐待防止について学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援専門員として、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学び理解しているが、これらを活用する機会はなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明時はわかりやすい言葉と文章について説明を行い、納得された上で同意を得て行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問の際に、困っている事、気になる点など伺うようにしている。また、その意見や職員からの報告など運営会議で議題としてあげている。	家族の訪問時には利用者の健康状態や最近の暮らしぶりを詳しく報告している。事業所から連絡相談がある場合は電話にて行っている。気軽に訪問してもらえるように、雰囲気作りにも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議の議事録や各種委員会の議事録は職員がいつでも見れるようにしている。	運営に関する各種の委員会が設置され、職員が委員として参画して決定している。引き継ぎ時やミーティング時に連絡することで情報共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの家族の状況に合わせた勤務体制を設定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ研修等については、勤務時間等を配慮することなど参加しやすい体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修や行事の参加で、交流する機会を持っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の前では言えない困りごとなどが多い認知症の方の家族と、また本人への配慮のため、面談では本人同席と同席なしの2回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に施設見学を行い、提供できるサービスについて具体的に説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合には、必ず他のサービスも含めた提供を行い、「その時の」本人と家族が選択できるように支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をおくる中で、利用者の中で連帯感が生まれ、それぞれの生い立ちや境遇の話に、耳を傾け、励ます場合がよくみられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の達成目標についての現状報告を行い、家族からの協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人、友人の訪問時は気兼ねなく過ごせるように、場所の提供等、配慮している。また、文通などで遠方の兄弟とも交流できるように支援している。	当事業所に入る前の自宅での生活の時の社会との関わりや知人友人関係、買い物や美容院などの馴染みの関係が入所後も途切れなくできるだけ継続できるように努めている。訪問、外出、手紙、電話などの利用を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や入浴以外でも、利用者同士で交流できるように、カラオケや散歩などレクリエーションを提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設して間もないため、該当なし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の日々の行動や訴え等、記録に残し、他の職員にも周知し利用者の意向を把握できるよう努めている。	入所時、家族にヒヤリングを行い本人の生活歴や趣味、嗜好を聞き取り、入所後の本人との関わりの中で得られた本人の希望や過ごし方を把握してケアプランに反映させている。リビングでの座る場所も本人が一番落ち着く場所を見つけて、食事もそこで行ってもらおうようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前と、入居後にも本人家族からの聴き取り等で、知りえた情報を職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人らしい過ごし方ができるように毎日のバイタルサインチェック、食事量、排泄、睡眠時間等を記録し、その日の心身状態を把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向の聴き取り、職員や専門職からの意見、主治医からの掲示等含めた内容を反映しプランを作成している。	本人と家族から暮らし方の希望を聞き、主治医の健康面に関する意見を聞き、在宅時のケアマネージャー引き継ぎ事項も参考にしながら介護計画に反映させている。定期的なモニタリングの実施とともに、本人状況の変化に応じてカンファレンス、モニタリングを行い介護計画を修正し、家族に説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録以外にも普段と違った場合には口頭等で職員に共有し、問題等の把握につとめている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向を尊重できるように、入浴、食事、就寝時間など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの来訪や、公園の散歩など取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診以外にも専門外来の受診への支援や、専門医とも連携できるように本人の状態を適切に伝えている。	徒歩5分の距離にある、系列の守口生野記念病院による24時間365日の全面的な医療支援体制が当事業所の大きな強みである。内科以外の専門科も同病院の外来での受診が可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活での気づきや特変時は同施設内の看護師に報告し適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、その病院の地域連携の職員と連絡を取り合い、情報交換等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	該当者はいないが、「重度化や、終末期にむけた方針」についてのマニュアルを作成し、その時が来た場合の対応ができるようにしている。	開設して間がなく、具体的な事例はないが、重度化や終末期の対応の指針を作成している。入所の時点で家族の意向を聞き、事業所の方針を説明して同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時当のマニュアルを作成し、また手順について張り出している。研修会でAEDの操作訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行っている。	8月の運営推進会議で、地域代表の民生委員より災害時の安否確認や防災体制についての提案があり、事業所と地域との防災協力の関係が築かれつつある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような介助方法や接し方を職員と共通認識をもって対応している。	職員は法人の研修で利用者接遇の指導を受け、また現場において職員同士が話し合い、利用者への声のかけ方や接し方について互いに学習している。実際の声掛けは優しく、分かりやすい話し方になっていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の体調や気分にあった活動が提供できるように、レクリエーションや個別課題を選択してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその時の体調や気分に合わせてため、入浴や洗濯、掃除などは週単位で考えて提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でその日の服を選ぶ事ができない場合は、選択しやすいように職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者同士顔を見て、話しができるようにテーブルを配置している。また、食事の後片付け等、利用者と一緒にやっている。	食事は法人の調理部門(外部)から配達され、管理栄養士が作成した献立に基づいた食事内容である。コの字型にテーブルが配置され話がしやすい工夫がしてある。食事後の片付けに利用者が参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月2回の体重測定、毎日の食事量、水分量など記録し、本人の状態を確認している。また、管理栄養士や看護師と協議し食事内容、形態など変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導を受け、口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の羞恥心や自尊心を考慮した排泄方法を個々に検討し支援を行っている。	平均的に介護度が低く、自立した排泄が可能な利用者も多い。利用者個別に排泄支援の方法が検討され実施されている。トイレが居室に設置されているので、利用者の排泄状況を見ながらタイミングの良い誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの取れた食事や乳製品の提供と、1日2回の体操で自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分に応じて時間や曜日を臨機応変に対応している。	浴室は4階のグループホームに完備しているが、利用者の好みで併設の共同浴場の利用頻度が高い。季節のお風呂として菖蒲湯なども実施して、ゆっくり入浴を楽しんでもらう工夫も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や、その日の体調に応じて、休息や就寝時間をとれるように支援をしている。また、日中は体操などを取り入れ良眠ができるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報を職員が把握しており、体調変化があった場合は看護師や主治医に報告し、指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を聴き取り、今現在継続できる好きな事をそれぞれ提案するなどしてやりがいをみつけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に通院や外出をしやすくするよう送迎や準備など支援している。	日常の外出は天気と本人の体調や気分を見て、近くの公園への散歩が主である。家族の協力を得て通院や買い物に出かけることもある。施設内が広いために内部の歩行だけでも運動になり、屋上に出れば外気に触れることもできる環境にある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が難しい方が多く、数名がお金を所持しているが使うことよりも持つことで安心されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望あれば電話や手紙を書く支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの特徴を生かした席の配置や、季節に応じた飾りつけなど居心地よく過ごせるようにしている。	法人としての事業所運営のノウハウが建物のレイアウトに活かされた設計構造になっている。廊下やリビング空間が広く確保されている。4階部分がグループホームで屋上テラスは広いスペースが確保され、お地蔵さんが置かれている。屋上から六甲や生駒の山、淀川の橋や利用者の自宅方向も遠望できる。	屋上の地蔵菩薩のネーミングや衣服を利用者と職員で工夫するなど、楽しみづくりに利用しては如何。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブル以外にもソファを設置。また居室の前も長椅子があり、利用者同士交流できるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族から希望される馴染みの物を配置し、本人が過ごしやすい安全な居室作りを心掛けている。	居室は清潔に保たれている。家族の協力で本人の馴染みの家具や飾り物が持ち込まれるなど、在宅の時の自室とできるだけ変わらないような雰囲気づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	トイレの場所がわからない方にはトイレの張り紙や、1日のスケジュールなど張り出し自立した生活を送れるように支援している。		